視察報告書

1. 視察年月日

2012年7月24日〜7月25日

2. 視察場所

釧路市
帯広市

3. 視察事項

釧路市 - 生活保護自立支援プログラムの取り組みについて
地域グランド化推進事業の取り組みについて

帯広市 - 中小企業との協働による中小企業振興について

4. 視察参加者

斎藤久代・阿部洋子・添谷和博・落合信太郎

5. 視察行程

別紙のとおり

6. 視察報告

別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 倉持光男 殿

平成25年4月6日

会派代表者 斎藤久代印
公明党取手市議団視察行程表

・視察日程　H24年7月24日
・視察先　釧路市
・視察者　齋藤久代　阿部洋子　染谷和博　落合信太郎
・宿泊先　釧路東急イン　釧路市北大通13-1-14

☎ 0154-22-0109　fax0154-24-5498

24日
取手駅（電車：飛行機出発時間に合わせる）→羽田空港

羽田空港（08:00~09:00）→たんちょう釧路空港（09:40~10:45）

たんちょう釧路空港（車移動）→釧路市役所13:00~15:00（視察項目①　視察項目②）→宿泊先

25日
釧路市内宿泊先出発7:00（車移動）→帯広市役所10:00~1130（視察項目③）

帯広市役所（車移動）→たんちょう釧路空港（17:20~20:30）→羽田空港（19:00~22:30）

羽田空港（電車）→取手駅

※飛行機時間は枠内で指定待ち

視察項目①　生活保護自立支援プログラムの取組

②　地域ブランド化推進事業の取組
公明党取手市議団視察（釧路市）

報告者 齋藤 久代

視察先：釧路市
視察日：H24年7月24日
視察者：阿部洋子　染谷和博　落合信太郎　齋藤久代

視察項目

① 生活保護自立支援プログラムの取り組み

日本中で、生活保護世帯の増加は社会的課題である。釧路市では H14年太平洋炭鉱の閉鎖、H20年リーマンショック、社会的要因を背景に生活保護世帯が増加。自立支援策に積極的に取り組む特徴的な釧路市の状況を視察した。収入減・病気・仕事が無くなる・離婚など、保護を受ける理由はさまざまなであるが、保護を受けていない間に、自信を失い、社会復帰が困難になるケースが見受けられる。自立は大きなテーマである。

日常生活自立　社会生活自立　就労自立　さまざまなケースに遭遇する中、ボランティア活動を通じた「居場所」を作る取り組み、子どもへの学習支援の取り組みなど、保護世帯に寄り添った支援策が受け入れられ、自立した具体例の紹介があった。

就労支援プログラムの中では、まずボランティア活動への参加から開始する試みが特に印象的であった。体を動かす爽快感、ボランティア活動への感謝の言葉が、やる気を生み、勤労意欲の向上・勤労習慣の回復に繋がる。

また、子育て世代の保護家庭においては、子どもの将来に微妙な影響を与えている点にそり寄って、進学意欲の回復・貧困の連鎖を断ち切るための支援が行われている。

丁寧に関わることで自立した人生が開けると思う。

取手においても、ボランティア活動や、学習支援など、より積極的な取り組みができるよう今後も引き続き工夫を求めたい。
地域ブランド化推進事業の取り組み

地域ブランド化事業については、豊富な水産資源を全国に売り出す取り組みが行われていた。H16年に釧路市地域ブランド検討委員会を設立。H18年ブランド化に取り組む対象物の選定を行い、H19年に「ししゃも」からブランド化に取り組むことを決定している。

ブランド化においては、①基準づくり②消費拡大（・釧路ししゃもフェア・料理教室・物産展・イベント出店・PR・販促ポスター・ロゴマーク・パッケージデザイン・統一カラー）③地域団体商標出願など、に取り組む。エネルギッシュな人材が地域を支えると実感。

11月7日は「釧路ししゃもの日」＝H21年7月日本記念日協会認定＝

ししゃもの次は、トキシラズの専門部門会が設置されている。

取手のブランドは何？・・と聞かれて私達は何と答えるべきか

・・歴史ある地元の名産品（銘産品）、新鮮な農産物、芸術の街、風光明媚な利根川・小貝川。今後は、「ウェルネス」の言葉で連想される健康をテーマに、進化した取手ブランド研究に力をいれるべきと考える。行政だけでは成功しない。地域商店も取り込んだ形での継続的な取組を促したい。
公明党取手市議団視察（帯広市）

報告者 齋藤久代

視察先：帯広市（人口約17万人 618.94平方キロメートル）

視察日：H24年7月25日

視察者：阿部洋子 染谷和博 落合信太郎 齋藤久代

視察項目

① 抽象記号との協働による中小企業振興について

帯広市では、帯広市中小企業振興基本条例がH19年4月1日に施行され、帯広市産業振興ビジョンをH21年2月に策定、産業の振興に取り組んでいる。その経過と、取り組み、現状などについて視察した。

十勝平野で獲れる作物は小豆、牛乳、馬鈴薯、ピートなど、食糧自給率約1100%という豊かな耕作地を生かし、農業を中心に据えた産業が発展してきた地域である。市内には9106箇所の事業所があり、「1〜4人」の事業所が50%、「20人未満」の事業所で90.7%を占めている。H15年中小企業同友会による全国的な取り組みとして「中小企業憲章」制定に関する検討が開始された。中小期同友会とから支部では、地方版たる「抽象記号振興基本条例」の制定に向けて動き始める。墨田区の商工行政に学ぶ。

商工会議所と同友会とから支部との合同検討、中小企業実態調査の実施、連携会議の開催、議会での論議、条例制定以後の市民との協働など、経過を踏まえて、今後に向けた取り組みを伺った。

取手市では取手市の地域性を生かし、魅力を開発すべき。中心は意欲ある集団である！
行政観察報告　釧路市の自立支援プログラム＆地域ブランド

2012年7月24日

視察1日目は生活保護受給者への自立支援を積極的に進めている釧路市で勉強させていただきました。

水産加工と石炭を資源として栄えていた頃の労働者が、今は水揚げも十分の一に減少し生活保護に頼らざるおえない人々が人口の18人に1人が受給者とのこと。

そしてその受給者の自立に向けて関わる職員が職員全体の18人に1人。

今この釧路方式が大きな注目を浴びております。

2009年には釧路市福祉部生活福祉事務所編集委員会が編集した冊子が出来上がっております。
観察を担当してくださった佐藤茂氏ごく

今まで生活保護受給者に対し管理ありきだったのですが、関わりの中でそうでなくて、外へいかに向けていくか、そのためにどうするのか、との発想の転換が今の釧路方式へつながっていったとの話が印象的でした。

そして何より、佐藤さんはじめ職員の熱心な取り組みがあってのことと、あらためて人には人でしか解決の道がないことを痛感してきました。
続いて地域ブランドについて伺いました。

今釧路市では、ししゃもと、とき鮭をブランド化させて販路の拡大に努めているそうです。地域ブランドにいかに育てて認知させていくか。

ここでもやはり、関係者の人による関わりが成功につながっていることを感じました。担当してくださった職員の澤口さんの歯切れのいいお話に吸い込まれていきました。

皆様ありがとうございました。
行政視察2日目、帯広市産業振興について

2012年7月25日

午前10時からの観察のため、午前7時にはホテルを出発しました。
何と言っても北海道は広いです。
隣と言っても移動に2時間30分はあたりまえなのです。

帯広市役所では庁舎前にフードバレーとかちののぼり旗が迎えてくれました。
帯広市は雄大な十勝平野のほぼ中心に位置し、日照時間も年間2000時間と天候にも恵まれ、基幹産業の畑作・酪農の農村地帯が大部分を占めています。

そのため、食糧自給率は1,100%と驚きの数字です。

例えば、国産小麦の25％、およそ24万トンを生産する一大生産地でありながら、その95％は本州府県に移出され、付加価値が域外へ流出。

地域内経済循環を高める上で、製粉工場の建設の必要性。

平成19年、産業振興ビジョン策定作業に着手するのにあわせ、小麦の付加価値向上に向けた取り組みに着手し、22年に隣町に製粉工場が7月に完成し、市内にも関連施設が立地予定とのこと。

また世界唯一のぱんえい競馬があり、その馬廃肥を活用したとかちマッシュ（マッシュルーム）栽培で資源循環型の取り組みにも成功しています。

いかにその土地の資源を有効活用し、更に産業振興に発展させていくか。

その取り組みにはやはり、関係者の熱い思いがありました。

やはり人でした。
公明党取手市議団は釧路市の「生活保護自立支援プログラムの取り組みについて」と「地域ブランド化推進事業取り組みについて」の視察をしました。

全国的に生活保護の在り方が問題になっています。

釧路市は独自の自立支援プログラムを進めていて全国からの注目を集めています。

25にも及ぶ自立支援プログラムがあり特に「母子家庭の母親の自立に向けて」のプログラムが素晴らしい無理やりでなくやる気を起こさせる、働く楽しさを学ぶなど母親のみならず子どもの生活を一新させることができるプログラムです。

自立支援におけるボランティアで人気のあるのは1位・公園管理、2位・高齢者の話し相手、3位・くろもとぴーぶる（知的障がい者施設）、4位・動物園、5位・阿寒農場と体を動かす職種が人気のようですね。

また、生活保護世帯の子どもの進学率の低さなどの解消のための居場所づくりなど様々な方法で自立の手助けをしています。

特に上から目線でなく「一緒にやっている」との姿勢は役所には見られない点です。
このようの方針がプログラム参加者の共感を生んでいるのかとも思いました。
取手市にとっても大きな課題です。
「希望をもって生きる」生活保護の常識を覆す釧路チャレンジを購入しました。この本の内容大変参考になります。

次に地域ブランド化推進事業の取り組みについてです。
写真にあるような昇り旗や冊子などを作り「釧路ししゃも」「トキシラズ」などのブランド化に向けて努力しています。
釧路地域のブランド化を進め全国に売り出す取り組みです、6年目になりますがまだ道半ばとのことです。
東京でも盛んにPRをし、トキシラズとししゃもを売り出しています。
ししゃものの写真ですが「Mrししゃも」という焼製でししゃもはオスのほうが脂がのり美味しいそうです。
取手市のブランド化の話題も出て意見交換も出来ました。
帯広市中小企業振興基本条例と帯広市産業振興ビジョンについて視察をしました。

釧路市のホテルを朝7時に出発して、120キロ、約2時間15分の移動です。釧路市中央部を過ぎて帯広市中心部まで信号待ちは1回、北海道の広さを実感しました。

まず、中小企業基本条例制定の背景から始まり、中小企業同友会との取り組み、実態調査、中小企業振興会（無報酬）での議論などを伺いました。

特徴として条例4条に中小企業の支援について、市長の責務が明記してあり、市長が変わって支援がなくなる事がないようにしてあります。

産業振興ビジョンはビジョンで目指す地域産業の姿、6つの具体的な展開事業、十勝帯広地域ブランドの推進、産業振興会議で継続的に必要な施策・事業の検討の場を設けています。

帯広市の商工費を一般会計の10％台に乗せ順調に推移しています。

行政視察も平成23年度までに400名以上になっていて、私たちは午前中でしたが午後も視察が入っているようです。視察での経済効果も上がっています。

食事を「ばんえい競馬場内」（競馬は休み）で豚丼を食べましたが美味しい。帯広が発祥の地だそうですね。

食事後はすぐに、120キロもどり空港へ行き帰路へ着きました。

釧路、帯広などは隣の街まで2時間以上かかるそうで、取手に比べてスケールの大きさにビックリします。
公明党取手市議団視察報告

報告者：落合 信太郎

視察先：北海道釧路市

視察日：H24年7月24日

視察者：斎藤久代 阿部洋子 染谷和博 落合信太郎

視察項目：生活保護自立支援プログラムの取り組みについて

市概要：人口182,263人（平成24.3月末）面積1,362.75㎢

急増する生活保護受給世帯、大部分の社会事務所は慢性的なケースワーカー不足状況。毎月の業務に追われ、「自立支援どころではない」という雰囲気があった。生活保護の制度設計や運用を担ってきた国の責任は大きいが、地域の中で工夫することもできる。それは仕事の進め方だと。自立支援プログラムを例にとると、就労自立も日常生活自立も市役所の内部「資源」の活用。また外の関係機関との連携。それによりこれまでのケースワーカーと受給者という関係から、受給者と地域資源、それを組み立ててる福祉事務所、ケースワーカーと広がった関係の中で行うことになった。それにより「受給者の顔が見える」となった。農園や産廃の分別作業など就労ボランティアに参加支援。地域に居場所つくり支援。社会との関係の中で生
れる受給者のエンパワメントは、評価の方法もなく苦手な分野だったが、受給者との間にそうした「ズレ」を見つめ「人を支える生活保護」へと転換を図りたいと。

2 地域ブランド化推進事業の取り組みについて

地域を売り込む：地場産品普及促進：釧路地域のブランド化

釧路らしさを活かす

信頼され、選んで買ってもらえる商品つくり。

食分野から食の安全、安心の確保やブランド化への取り組み。

観光分野から体験型観光や観光の連携などの取り組み。

生産者・加工・流通・販売・関係業者などが地域一体となって取り組むことが重要。

平成 16 年 11 月 釧路地域ブランド検討委員会設置

平成 18 年 ブランド化に取り組む方向性の検討

平成 19 年 11 月 釧路地域ブランド化ブランド推進委員会の設置

消費団体・支援団体 14 団体 14 名

「ししゃも」からブランド化に取り組むことを決定

平成 20 年 1 月からししゃも専門部会の設置

●特性調査・官能検査・基準づくり●消費拡大・販路開拓
地域団体商標 出願中（平成23年12月提出）

11月7日は

「釧路ししゃもの日」（平成21年7月日本記念日協会認定）
公明党取手市議団視察報告

報告者：落合 信太郎

視察先：北海道帯広市

視察日：H24年7月25日

視察者：斎藤久代 阿部洋子 染谷和博 落合信太郎

帯広市概要：人口168,188人（H24.3未現在）面積618.94㎢

視察項目：中小企業との協働による中小企業振興について

帯広市の現状・従業者規模別事業者では、「1から4人」の事業所が59％と全民営業所の90.7％が「20人未満」の事業所。

「地域内経済循環」の視点による取り組みが大事。

『地域力をいかした活力ある地域産業の形成』

東京都墨田区の商工行政に学ぶ

中小小売商業は帯広・十勝の顔である中心市街地はもとより地域における商業機能の担い手として、地域にコミュニティの中で重要な役割をはたすため中小企業者、経営団体、行政等連携と協働により展開をして行く。取手市の地域力は？強力に推進する人材が必要。